

資料

ロードキルによるタヌキの解剖所見

坂庭浩之¹・姉崎智子²・田中義朗³・黒川奈都子⁴・金井英男²

¹群馬県環境森林部自然環境課：群馬県前橋市大手町1-1-1 (sakaniwa-hi@pref.gunma.jp)

²群馬県立自然史博物館：群馬県富岡市上黒岩1674-1

³群馬県食肉衛生検査所：群馬県佐波郡玉村町樋越305-7

⁴群馬県健康福祉部食品安全会議事務局食品監視課：群馬県前橋市大手町1-1-1

要旨：群馬県内におけるタヌキの分布は広く、ロードキルで自然史博物館に搬入される個体も少なくない。今回、2008(平成20)年11月21日に、多野郡上野村の路上(北緯36°05' 14.9", 東経138°43' 30.6")においてロードキルによるタヌキの死体を回収し、解剖により多少の知見を得たので報告する。

キーワード：タヌキ, *Nyctereutes procyonoides*, 群馬県, 解剖, 繁殖状況, 胃・腸内容

Examination of road-killed raccoon dog (*Nyctereutes procyonoides*)
found in Ueno Village, Gunma Prefecture

SAKANIWA Hiroyuki¹, ANEZAKI Tomoko², TANAKA Yoshirou³, KUROKAWA Natsuko⁴ and KANAI Hideo²

¹Bureau of Forestry and Environmental Affairs, Natural Environmental Division:

1-1-1 Ohtemachi, Maebashi City, Gunma Prefecture (sakaniwa-hi@pref.gunma.jp)

²Gunma Museum of Natural History: 1674-1 Kamikuroiwa, Tomioka City, Gunma Prefecture

³Department of Health and Welfare, Meat Inspection Laboratory, Prefecture of Gunma:

305-7 Toigoshi, Tamamura-machi, Wawa-Gun, Gunma Prefecture

⁴Department of Health and Welfare, Food Supervision Division, Prefecture of Gunma:

1-1-1 Ohtemachi, Maebashi City, Gunma Prefecture

Key Words: Raccoon dog, *Nyctereutes procyonoides*, Gunma Prefecture, examination, reproduction, diet

はじめに

群馬県内におけるタヌキの分布は広く(小林, 1985), 現在, ハクビシンとともに, ロードキルで発見されたり, 農作物被害を出す種として有害捕獲されるなど, その動態が注目されている種である。今回, 2008(平成20)年11月21日に, 多野郡上野村の路上(北緯36°05' 14.9", 東経138°43' 30.6")においてロードキルによるタヌキの死体を回収し, 解剖により多少の知見を得たので報告する。

観察所見

1 個体情報 受入番号VM08-215

ホンダタヌキ(*Nyctereutes procyonoides*), 性別:メス, 年齢:2~3才

体重:4.4kg, 頭胴長:49cm, 尾長:19cm, 耳介長:3.6cm, 耳幅:3.2cm

2 外貌

3対の乳首はいずれも授乳経験を示す色素沈着を認める

が、乳汁分泌は認められない。左右肩甲部後位から最後肋骨の幅、及び腹側までの範囲に、軽度の脱毛と皮膚の増皮(図1-1,2)、多量の落垢(図1-3)を認める。また、右肩甲部中位に前後方向約7cm長の裂傷を認め、右前肢橈尺骨中位部での単純骨折を認める。さらに、左大腿骨中位、下顎骨前端部での単純骨折および、腸骨恥骨部分の複雑骨折を認める。

剖検所見

栄養状態は良好で、腹部剣状軟骨部における皮下脂肪厚16mmを認め、腸間膜脂肪も認める。右肩甲部中位裂傷部周囲に広範な皮下の充・出血を認める。右前肢橈尺骨、左大腿骨、下顎骨、腸骨恥骨部分の骨折周囲の出血はなく、死亡後に生じた骨折であった。

子宮には5カ所(右3,左2)の胎盤痕を認め、出産後3~5ヶ月程度の状況と判断された。

胃内容物

甲殻類の残殻、魚類の基後頭骨、椎骨、魚類頭部破片などの他に、昆虫の腹部の残殻を認める。また、金属製の釣り針を1点と体毛を認める。

考 察

ホンドタヌキは、群馬県内に広く生息している。疥癬症のタヌキの目撃情報は、県内で散発的に報告され、近年では安中市や富岡市などで目撃情報があるものの、具体的な詳細は不明である。

今回解剖したホンドタヌキ(VM08-215)は、皮膚ヒゼンダニによる疥癬症に罹患しており、広範な皮膚の肥厚と多量の落垢を認めた。このような病体は本症に罹患したタヌキに見られる一般的な症状であり、個体に対し強度のストレスにより衰弱を惹起することで、昼間に人前に姿を見せ、目撃の機会が増加する要因ともなっていると考えられる。

本解剖に供した個体は、交通事故により死亡した個体であるが、事故により発生した損傷は右肩甲部の切創と皮下の広範な充出血であった。右肩甲部の傷害は歩行を困難にするほどのものでなかったと考えられるが、衰弱した個体に対して致命的な傷となり、路上で移動できず死亡したと推測される。右前肢、左大腿部、下顎骨、恥骨の骨折は周囲筋肉組織への出血を認めなかったことから、死亡後、複数回にわたり車に轢かれたことにより、複数の骨折が生じたものと判断される。

また、VM08-215の子宮からは明瞭な5つの妊娠痕が確認されたことから、5頭を出産し授乳していたことが指摘できる。昨年度、自然史博物館で解剖した個体(VM07-117)には、胎盤痕が左5,右4の計9つが認められたことから、群馬県で

は少なくとも5頭から9頭の出産を行うことが確認された。妊娠痕の消失状況については今後、詳細な分析を行い、出産時期を特定する必要がある。

本解剖で得られた興味深い知見として、胃内容物の分析結果がある。タヌキは雑食性の動物で、小動物、鳥類、昆虫、果実や土壌動物の採食が多い傾向があるといわれている。今回、VM08-215の胃からは、釣り針(溪流用)や、魚類の基後頭骨、椎骨、魚類頭部破片、甲殻類破片、昆虫などが認められた



図1-1 VM08-215標本の右側面観。

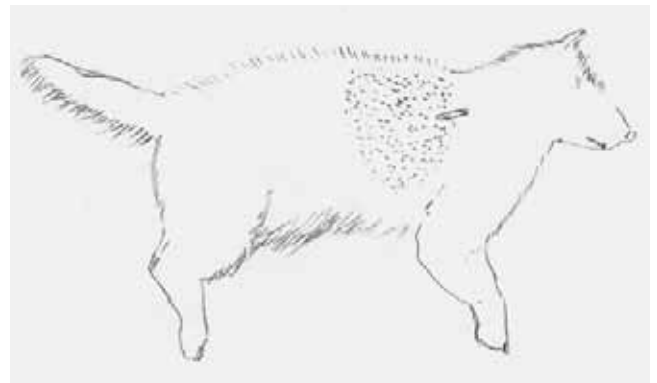


図1-2 図1-1の疥癬箇所の範囲。



図1-3 VM08-215にみられた多量の落垢。



図2 右肩甲部中位裂傷部周囲に広範にみられる皮下の充・出血.

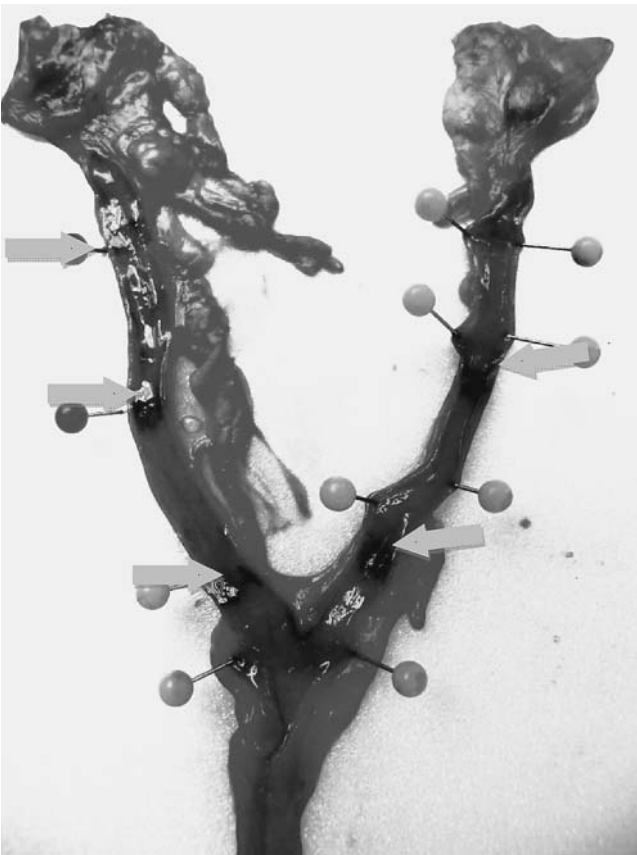


図3 胎盤痕が認められる子宮の状況 (右3, 左2).

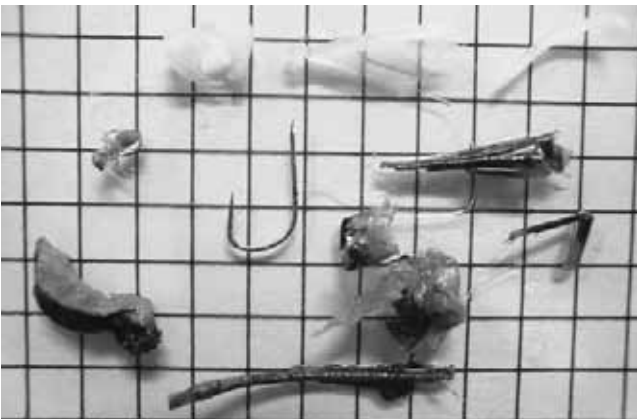


図4 胃内容物 (メッシュは5mm).

ことから、水辺でこれらの動物を捕食あるいは死亡個体を採食し、冬季に備えていたことが考えられる。ホンダタヌキが川辺で甲殻類や魚類を採食している事実は、本県で分布を拡大しつつある特定外来種のアライグマと競合するものである(姉崎ほか, 2008)。本県でアライグマが増加し分布域を拡大した場合、アライグマのほか繁殖率の高いタヌキも、水辺の多様性損失に係わる重要なファクターとなる可能性があると言わざるを得ない。今後の追加調査が必要である。

引用文献

- 姉崎智子, 坂庭浩之, 長尾由美, 田中義朗, 黒川奈都子, 佐藤ゆり恵, 佐藤 弘 (2008) : 群馬県におけるアライグマの生息状況と個体の記録 (2007) . 群馬県立自然史博物館研究報告, **12**:73-78.
- 小林 正 (1985) : 群馬県の哺乳類. 群馬県動物誌. pp.49-104.